

つくしだより



令和8年2月号

障害者をめぐる内外の動向

都連理事 寺澤 元一

昨年12月、「全国障害フォーラム」(JDF)の2025全国大会が開催されました。JDFは、国連の障害者権利条約の推進や障害者の差別禁止と権利に係る国内法制度の推進等を目的として、障害者団体を中心に設立されました。「みんなねっと」も構成団体として参画しています。

■グローバル障害者サミット

大会には、障害者権利条約に基づき設置された国連障害者権利委員会(CRPD)のキム・ミョン委員長が基調講演者のため招かれました。キム委員長は、昨年4月にドイツで開催された国際会議「グローバル障害者サミット2025」において、重要な宣言が採択されたと述べました。この宣言は、障害者が世界人口の15%(10億人)を占めることから、各国政府や国際機関に対し、社会開発の予算のうち最低15%を障害者のインクルージョン(包摂・障害者が差別・排除されることなく、社会に公平に参加できる機会が付与されること)のために支出することを呼びかけるものです。

キム委員長は、日本にその模範を

示してほしいと求めました。背景には、米国トランプ政権による国連拠出金の大幅削減もあるのでしよう。

■CRPDの次回対日審査

大会には、新しく障害者権利委員に就任した田門浩(たもん ひろし)弁護士も招かれました。同氏は、日本が障害者権利条約をきちんと履行しているか審査する次回の対日審査が当初の2028年から2032年に先延ばしになったと述べました。会場は一瞬どよめきました。なぜなら、対日審査は、障害者にとり国内の法制度を改善できる絶好の機会だからです。それが数年遅れるのです。対日審査では、日本政府の報告に並行して、障害者団体等も意見報告を提出できます。委員会は、意見報告にある当事者の声を審査結果として「総括所見」に反映させます。わが国政府は、総括所見の勧告を尊重し、政策に反映する努力義務を負うわけですが、ところで、家族会も独自に意見報告を提出できるそうです。次回審査は6年後ですが、家族の声も提出すべきではないでしょうか。

因みに、前回審査の総括所見は2022年9月に出されました。総括

所見は、日本の精神保健福祉法が多くの点で精神障害者の人権を損なっていると厳しく指摘し、改善を勧告しました。その翌年に発覚した滝山病院事件は、総括所見の指摘がまさに現実のものであることを世論に認識させました。

■障害者基本法の改正試案

次いで、大会では前回の総括所見も踏まえ、障害者基本法の改正に向けたJDFの改正試案が報告されました。試案では、精神保健福祉の項が空白のままです。今後、精神障害の当事者団体の他、「みんなねっと」も試案作成に参画します。基本法は、すべての障害者関係法令の根本となる理念法です。試案には、一部の関係者だけでなく、広く家族会の声も「みんなねっと」を通じて、反映させる必要があります。国の法令により、当事者支援はかなり整備されましたが、家族等のケアに対する支援はありません。家族が倒れば、当事者も倒れます。「ケアの脱家族化」を達成する理想的な制度が整備されるまでは、家族等のケアを支援する理念が基本法に盛り込まれるべきではないでしょうか。

調布市家族会かささぎ会を訪問して

都連副会長 植松 和光

昨年12月13日(土)午後、眞壁会長、本田副会長の3人で、初めてかささぎ会を訪問しました。会場は「調布市こころの健康センター」往路は京王多摩川駅から約8分ほど歩いて到着、途中には角川大映スタジオがありました。「山崎豊子さんの沈まぬ太陽」など有名な作品が作られていたんですね。現在もTV作品などの撮影をしているようです。

さて、かささぎ会では毎月2回家族相談を行っているそうです。私たちが訪れた日も家族相談会で他の家族会が行っている交流会とは異なっていました。この日は、会長を始めご家族が10名のほか、会場の調布市こころの健康支援センター長の木内さん、また、会を支援してくれている社労士の滑川さんも参加。いつも参加してくれているそうです。簡単な自己紹介のあと、ご両親で相談会に参加した方が状況を説明してくれました。その相談内容は、当事者の余りにもひどい父親への暴力への対応でした。この暴力に対していつも我慢して絶対に警察には通報しようと思わない父親。一方母親は、このような状況を家族で抱え込まず、誰かに相談すべきだ、場合によっては、警察にお願いしてもいいので

はないかと、両親の間で危機感のとらえ方の違いはとても辛いと話してくれました。これに対し、参加者から様々な意見が出されました。相談された方は真剣に皆さんの意見を聞いていました。ご両親の考え方の違いをどう解決して乗り越えていくのか、当事者どう向き合っていくのか私自身もとても参考になりました。

調布市かささぎ会の皆様、有難うございました。帰路は、調布駅に向けて帰りました。

訪問しました「板橋はすね会」

都連副会長 本田 道子

まだまだお正月気分が残る1月10日の午後、都営三田線「志村3丁目」の駅に降り立ったのはずいぶんと久しぶりの気がします。駅の周辺は来る度ごとに様変わりしていて、どんどんおしゃれな町に変わってゆくのを感じながら会場の「グリーンカレッジ」へと向かいます。

スタートは我が家の話を少し。

こうして毎回、自分の話をすることで私自身に新しい気づきが生まれたり、今までとは違う感慨が生まれたりするのは、こうした場面

を私に与えてくださるみなさまがあつてのこと、と感謝です。

今回、皆様との交流の中で改めて思うことは、「親であること」のせつなさ、辛さ、でしょうが、「肉親」であるがゆえに、そして「愛情」があるがゆえに、断ち切れないもの。

「思いきれない」のは当然のこと。しっかりと時間をかけて、自分自身を納得させることが必要でしょう。

これは、私自身の体験でもあります。私はこのために1年半もの間、2所帯での生活を始めるようになったのですから。十分に納得すれば、必ず次のステップにいけますとも。

こうして毎回、家族会に呼んでいただき、思うことがあります。

どの家族会でも、毎月かならず例会をきちんと開きそれぞれの活動を休むことなく継続させている。このエネルギーはすごいことです。それだけ必要とされている、ということだろうと思います。家族会ができて今年で60年、みんなねつとの記念行事に参加しながら、皆さんと一緒に考えてみたいですね。



かたくりの会(江戸川区)訪問

都連副会長 轡田 英夫

日時 1月11日(日) 13時～16時

場所 船堀タワールホール会議室

参加者 17名

船堀タワールホールは駅近のきわめて便利の良い施設です。公共施設がこのように駅近だと住民には便利で良いですね。

当日は新年会の日でしたので、おいしい御膳、飲み物と果物というごちそうに授かりました。

最初に私が息子の発病の経過を話し、その中で私の考えていることを話しました。

80・50という事は、皆さんすでにご存じとは思いますが、私は逆に50・80という事を考えています。これが意味することは、50代の当事者が、80代の親と共に支えあって生きていくという事です。80代の親は、様々なことができなくなってきましたが、そこを50代の当事者が補っていく。その中で、親は生活するすべてを当事者に伝えていく。そうすれば、親亡き後でも自立して生活できるようにになるという事です。また、親が包括支援センターに関わっていくようになる、支援センターの専門員が、同居している当事者のことも知り、当該当事者が、社会資源を利用するにあたって必要な援助を行う

ことができるという事になります。

このように、生きるすべを覚え、必要な社会資源を手配し、親亡き後に備えることができるのではないかと考えています。

話題になったことは、障碍者も平等に裁判員裁判の裁判員に指名されるという事です。当事者は受けたがっているが、親は何かと心配だから断りたいがどうしたら良いか。病状的に当事者が対応できるかについて、主治医とよく相談をして、課題があることを当事者に伝えて当事者の意見を尊重して判断したらよいのではないかと話しました。私にも降りかかりかねない事です。対応を考えなければならぬと思いました。

個人情報保護の重要性

都連副会長 本田 道子

家族会の活動をしている中で、私たちも様々な形で個人情報と向き合うことになりました。

特に個人の「疾病」や「障がい」についてはトップクラスの個人情報です。

普段から、心して向かい合うように心がけてはいるつもり、ではいても、これを機会に今一度改めて見直してみる、のはいかがでしょうか。

というのは、先日、相談員研修のひとつとし

て「弁護士」を講師としてこの研修に参加してきたのです。

個人情報に実には多様化してきました。

氏名・メルアド・音声データ・映像(特にネームプレート)の写っているもの・マイナンバー・顔認証・指紋などなど、生きている個人を特定できるものの全てが個人情報となります。そしてこれらはすべて本人の同意なく、かってに利用することはできません。たとえ、本人のためによかれと善意で行った行為であったとしても。本人の了解が必要。守秘義務違反や個人情報漏洩、として損害賠償責任を問われかねません。

ただし、例外的に本人の生命を守るために、ということでは「本人同意」は不要の場合もあります。

◎個人情報保護の基本は【本人の同意】

◎例外的に、その人の命を守るために

【本人の同意】が不要な場合がある。

◎要配慮個人情報を扱う場合はより慎重に

日常的に個人情報を取り扱う人は、管理により慎重さを(個人情報保護ガイドライン)相談員としては情報共有や相談記録の取り扱いなど、なお一層の心がけが必要、と思ったことでした。

このコーナーは、家族会間やつくし会との情報交流の場です。より良い家族会活動のために皆様に役立つ場にしたいと思っています。載せたい情報を毎月 25 日までに、つくし会事務所に、メール (tsukushikai@chorus.ocn.ne.jp) または FAX (042-453-7534) でお寄せください。

【情報提供】 とうきょうユニバーサルデザインナビの新設

お出かけの時、事前にお出かけ先の施設情報を調べてから出かけると迷わなくてすみますね。

例えば、駅のエレベーターやエスカレーターの場所がどこにあるか等。

とうきょうユニバーサルデザインナビは、お出かけに必要な情報をお届けします

公益財団法人 東京福祉保健財団が作成しました。

とうきょうユニバーサルデザインナビ (略称UDナビ)

<https://www.udnavi.tokyo>

条件検索、場所別検索 (現在地を地図で探す、区市町村で探す)、交通手段別検索 (鉄道・車、飛行機・船)、スポット別検索 (買う、遊ぶ学ぶ食べる、他)、その他各種情報が紹介されています。

★ 講演会のお知らせ ★

○家族の思いとこれからの精神医療への希望～家族会活動を通して考えること～

日時…2月27日(金)午後1時半～4時

講師…植松和光さん(東京つくし会副会長)

会場…高円寺障害者交流館1・2会議室

参加費…300円 会員無料

問合せ…杉並家族会 090-4535-9663

080-1004-1197 金曜日は080-7716-8828

○ライフステージや病状に合った支援と福祉制度

日時…3月8日(日) 1時半～4時半

講師…高田俊太郎氏(文京区障害者基幹相談支援センター所長)、柳瀬裕貴氏(文京保健所予防対策課精神保健係長)

会場…文京シビックセンター5階C会議室

会費…500円(当事者100円)

申込…要予約、先着順、会費当日支払い

文京区障害者基幹相談支援センター

03(5940)2903

○発達障害とは?

日時…3月14日(土)2時～4時半

講師…渡邊菜保子先生(大泉病院)

会場…新宿区立障害者福祉会館2階

申込不要。会場に直接おいで下さい。

地図…新宿フレンズHP※例会→昼の会

※<https://www15.big.or.jp/~frenz/wp/>

編集後記

「やれ、今夜も昇天しよう。」寝る前によく母親がつぶやいていました。「なんで昇天？」

中学生だった私は母に聞きました。「寝るは天国・起きるは地獄ということがあるんだよ。」昭和三十年代の末です。子供からみて

も、一家の主婦は大家族でお姑様に仕えながら、大忙しで、苦勞もあつたのでしょう。

今、人生の後半も最終時期に近づく私ですが、死ぬときはどうなるのかな？と考え

ると、母との会話を思い出します。(母は百二才まで生きたのですが・・・)

現在、息子と二人暮らしの私は、(私が死んだら)(私が死ぬとき)二つのバージョンで、冗談ネタで話し合います。

(私)死んだら悲しむのはほどほどにして、宴会して喜んでね。永遠に休息する始まりだから。何より嫌なのは、痛い・苦しいことだから、延命治療はやめてね。胃ろうも嫌だな。

(息子)ちゃんと書いておいて。病院で聞かれたら見せるから。

(私)助からないときは眠らせて死なせて。あなたは、支援者のひとに相談しながら生きて行くんだよ。

(息子) そうだな・・・

この会話はどうなるのかしら・・・

都連理事 高木むつ美